



Rin



国際交流協会 わたり 会報

特集

「在住外国人のためのサポート講座」

*** 佐藤 節子 ***

2002年当時、この巨理町は35,700人余の人口がありその中で、およそ90人ほどの外国人が生活しておられました。協会の前身となった「楽しい日本語講座」というボランティアグループが開催する“日本語の勉強”に通う方々から、

「母子手帳」に何が書いてあるかよくわからない。
同居している舅姑さんたちの方言が聞き取れない。
保育所との連絡ノートがよくわからない。
お医者さんになんて言ったらいいか、またどこに行ったらいいかわからない。

というような日常生活に密着したさまざまな不安が寄せられ、又日本で、そしてこの巨理で生活する上でのさまざまな情報を求めていることが察せられました。

当時、文化庁委託の「わたり親と子の日本語教室」が開催されることとなり、このような在住外国人の方々がいかに住みよい生活を巨理で実現していけるかを主眼においたテーマを中心に、日本語を勉強する教室がスタートしました。

2002年11月からはじめた教室では、町の広報、母子

手帳、小学校の教科書、町の地図、医療用語ハンドブック、日本の行事辞典などを教材とした日常生活的なものから、和服着付け、和服の歴史、茶道、華道、絵手紙、書道、空手、日本の歌、よさこい踊り、日本の料理、等等非常に多様な教室となっており、好評のうちに、この3年間で延べ人数200人近くの方々が受講しました。

2004年からは、赤い羽根共同募金からの助成金を得ることとなり、現在は、月1回の割合で教室が開催され、協会員有志が、会場設定、講師探し、会計、各在住外国人へのチラシ作成郵送など、煩雑な作業を粘り強く繰り返し、又受講中の受講生の子供の託児、そしてこの教室への運転送迎のボランティアの方々の協力がこの教室を支えています。

来期は受講生の要望もあり、春からは「外国人のためのIT講習」「日本の冠婚葬祭」などの教室が予定されております。

この教室へのボランティアに興味をもたれた方ぜひ事務局まで。皆様の力がこの教室運営の大きな支えになります。

平成16年度
在住外国人
日常生活サポート講座わたり

開催日	場 所	内 容
1 6月19日(土)	中央公民館	日本の料理
2 7月3日(土)	巨理明和女学院	日本の音楽(その1)
3 9月4日(土)	巨理明和女学院	日本の音楽(その2)
4 10月23日(土)	巨理明和女学院	和服の着付
5 11月20日(土)	中央公民館	和服の着付と茶道作法
6 12月18日(土)	吉田公民館	日本の正月料理
7 1月22日(土)	中央公民館	日本の踊り(よさこいダンス)
8 2月5日(土)	中央公民館	健康に関する指導(空手)
9 3月12日(土)	中央公民館	陶芸教室

写真で見る

「在住外国人の



明和女学院の庭で記念撮影



和服はアジアの国の人々にもよく似あいます



帯の結び方はこれでいいの？

和服の着付講座

講師：高橋泰子

日本の踊り講座 よさこい

講師：菊地淑子



広い会場めいっぱい使って練習したよさこいダンス

ためのサポート講座」

日本の正月料理講座

講師：横尾公子



レシピを入念にチェックする外国人の参加者



和食の包丁さばきや下ごしらえに挑戦するタイの皆さん



出来上がった創作押し寿司

健康講座 空手

講師：八巻幸子



さすがに腰の入り方が違う八巻さん

「在住外国人のためのサポート講座」

陶芸講座

講師：菊田千登世



皿の製作に挑戦中の斎藤慶子（韓国）さん



コーヒーカップのとってつける佐藤純子（中国）さん



ウォーエンボンさん（タイ）に丁寧にやさしく指導する菊田先生

事例発表

去る2月に宮城県国際交流協会（MIA）主催の「市町村国際交流協会連絡会議」及び「日本語ボランティアセミナー」というふたつの催しに、亶理国際交流協会は「協会の活動事例の報告」を依頼され、前者を尾形副代表が、そして後者を八巻事務局長がプレゼンターとして出席し事例発表を行ってきました。

いずれも、プロジェクターを使ったわかりやすい説明で好評を得ました。



尾形副代表のプレゼンテーション

私はこうやって英語とスペイン語を勉強しています

いろいろ試して最終的に落ち着いたのは外国語放送のテレビ番組をひたすら見ることでした

-- 小野 正勝 --

私は巨理町内に在住の小野正勝と申します。私の妻はメキシコ出身で名前はソニアと申しまして国際交流わたりのスタッフの皆様には常日頃いろいろとお世話になり大変感謝しております。

さて、私が今までに勉強した外国語は英語とスペイン語の2カ国語ですがどちらも決して胸を張って喋れるというものではありません。いずれも勉強の真最中です。このような私ですが、今までに実施してきた外国語習得に関する体験をご紹介します。

まず初めにやった事といえば書店で会話本を買いあさり、ひたすら暗記するというものでした。しかしこれはどんな本を試しても途中で苦痛になり長続きしませんでした。やはり勉強勉強と力みすぎるあまり持続できなくなってしまったのだと思います。

次に試したのはヒアリングのカセットテープで、毎日繰り返し聞く事で自然と身に付けられるという触込みのものでした。これもまた途中で飽きてしまい長続きしませんでした。他にも



奥さんのソニアさん

数種類試しましたが、いずれもうまく行かず終いでした。

妥協した訳ではありませんが最終的に落ち着いたのが外国語放送のテレビ番組をひたすら見る事でした。最初は聞き取りずらいのですがしばらく聴いているとだんだんと耳が慣れてきて、今度は単語が少しずつ聞き取れるようになってきます。最初の頃は易しい子供向け番組から始め、今は大好きなスポーツ番組を見ている。内容を推測しながらただ見ている時もありますが、それでも頻繁に出てくる言葉など気になってくると、まず知ろうと努力するようになります。

このように私の場合は無理に学習効率を上げるよりも学習を継続させるための手段に重点を置いている感があります。

たとえ目標があったとしても気力だけでは持続が難しく、興味が湧かなければ前に進めないのではないのでしょうか。

これからも無理無く気長に続けていける学習スタイルを追求しつつ語学力向上に邁進していきたいと考えています。

珈琲 タイム

・ALT(英語指導助手)
制度導入の成果をまざまざと見たような気がしました。巨理町主催の中学生海外派遣事業で、派

遣される中学生のために一月末から二月にわたって合計三回シリーズの英会話教室がありました。先生は巨理町のALTであるアンジェラ先生が担当し、派遣される中学生は二年生で、まだ二年しか英語を勉強していないのにアンジェラ先生の言うことができる程度わかっていくようになっていきました。自分の中学生時代を思いおこすと、中学二年でネイティブスピーカーの言っていることがわかるなんて驚愕の一言です。アンジェラ先生はひとりで巨理町の全中学を回るので英会話を教えると言ってもごく限られた時間でありません。それでもかなりの成果を上げているということ、今回アシスタントとして参加して強く感じました。しかし、そうだからといって、オーストラリアに派遣される中学生がある程度楽に会話ができるほど甘くはありません。かなり苦戦するだろうと予想しています。それほど語学は奥が深いということです。それでも、最後の日にホストファミリーに手紙を書いたのですが、参加者のひとりの手紙の文面に「帰国したらメールのやり取りをしたい」と書いていたのがとても頼もしく印象的でした。

(M・I)

国際理解出前講座

「国際交流協会わたり」も、発足から早4年が過ぎ、当協会の地道な活動が功を奏してきたのか、その存在が町内に知られる様になり、ここに来てにわかにあちらこちらから声が掛かるようになってきました。これも国際化という波なのでしょうが、文部科学省の教育指針にも「国際化」という言葉があると聞きますが、わたしたちの協会では発足前からこの様な考えの下、いろいろな活動を行っていました。それやあれやが認められての、声掛かりかと協会のスタッフ達は、思っています。

昨年から今年に掛けて、巨理町内の幼稚園・保育所、そして小学校から中学校まで。その幅の広さと要望の多様性に、担当者達は右往左往しながら「出前講座」をこなして来ました。

しかし講師の方々に話を聞くと、その日が来るのが怖くて、病気にでもなって休めないかと思ったり、家族に不安を漏らしていたとか。初めての出前講座の時は、見た目には感じなかったのですが、講師の方々は相当緊張されていた様子です。ただ授業が進むにつれて、その緊張もほぐれていき、終わった後の感想は、皆「楽しかった！」と言われていました。

では、その詳細をこれから「巨理小学校」「荒浜中学校」「高屋小学校」の順に報告したいと思います。(菊地)

巨理小学校へ出前講座

国際交流協会わたりに対して、外国の方による「出前講座」を、学校という場から依頼されたのは、巨理小学校が最初です。この依頼には初めてということもあり、協会内では相当戸惑いもありました。この戸惑いは私た

(次ページに続く)



中国の地理を教える平間衣那さん



タイの文字を教えるウォエンポンさん



タイはここだよ、と指さすクンさん



熱心に説明を聞く巨理小4年の子供たち



中国の料理の説明をする佐藤純子さん

ちだけが初めてということだけでなく、この「出前講座」を依頼された学校の先生方にも初めてのことで、相当の戸惑いがあったのではないのでしょうか。

その表れのひとつとして、学校からの授業依頼の内容が「外国の方に何か2時間授業をお願いしたいのですが」と言うものでありました。ある程度授業内容を決めて頂けたら、まだ私たちの戸惑いは違っていたと思いますが、これはこれで学校側としても初めてということで、手探り状態だったと思っています。しかしこれから何度か続けていくと、それも解消されると思います。

さてその初めての「出前講座」ですが、「タイ国」出身の2人と「中国」出身の2人の計4人の講師の方のご協力を得て、巨理小4年生の皆さんに対して、最初は少しばかりの緊張と不安でしたが、最後の方では、とても楽しく授業を行っていたようです。

授業内容は、まず「タイ国」・「中国」の、それぞれの国の位置や言葉、文化等を、生徒達に質問しながら進めていきました。生徒達も予め勉強していたとみえて、殆ど間違えもなく答えていました。ある子などは「タイ国」の言葉を答えたりして、講師の方を驚かせていました。

荒浜中学校出前講座 (料理教室)

「出前講座」で外国出身の方からその出身された国の料理を、親子で習いたいと荒浜中学校から依頼を受けました。協会としては「これなら自信あり」と思い、講師の人選や内容などを決めて、中国の「豚まん」とニュージーランドの「クッキー」と言うことで学校とも打ち合わせをしました。

当日、荒浜中学校を講師と協会スタッフで訪問したところ、沢山の生徒さんとお母様方に迎えられ、普通の教室二つ分もあるような広い調理実習室がイッパイで圧倒されました。しかし圧倒されたのは人数の多さだけではありません。その「出前講座」で使われる食材の多さにもビックリしました。何せ約100人分近く材料ですから。



アンザッククッキーの作り方を教える
ニュージーランドのリンダさん

タイムですが、残念ながら、私の筆や写真からでは香りや味まではお伝え出来ませんが(それはそれで、これを読まれている方々には幸運なことかもしれませんが・・・)学校教育の場では、まだ2度目の「出前講座」を料理教室という形で出来たのは、当協会としても良い経験となったのではないのでしょうか。二人の講師の方々も終わった後、貴重な経験が出来てホットしておられました。



中国出身の佐藤純子さん手さばきに驚く荒中の生徒たち

さて、この「出前講座」での料理風景ですが、聞くより一見です。写真をご覧ください。賑わいが伝わってこないのでしょうか。普通の授業や参観日の授業風景とは少し違う、生徒と親というのではなく、子供達とお母さん方の参加する料理教室というものを感じました。

さてさて料理も出来上がり、自分達で作った料理の試食

参加した生徒の声

- ・私は初めて肉まんを作りました。上海からきた先生に教えてもらいましたが、知らない調味料があったり、具を混ぜる時の手の動かし方がすごく早かったり、さすがに本場の人にはちがうなあと思いました。
- ・私と千紘ちゃんはほとんどアンジェラ先生と話しながら作っていました。
- ・国際交流センターの人が5人来ているいろいろ説明してくれて分かりやすかったです。
- ・教えてくれたふたりの方とは、おはなしできなかったけど、外国のたべものを教えてもらってうれしかったです。
- ・私はクッキーの方で、ニュージーランドの人から作り方を教えてもらいました。材料が、見たこともないものがあったて本当においしいのかと思っていました。

高屋小学校出前講座

(料理教室 & 各国のことを学ぶ)



タイの民族衣装で講師を務める
三品ウォーエンポーさん



メキシコについて説明する小野ソニアさん



杏仁豆腐の作り方を教える中国出身の平田パイさん

さて続きまして高屋小学校での「出前講座」について話してみますが、こちらは荒浜中学といろんな面で違いがあります。

荒浜中学校の出前講座との大きな違いは、その参加人数ですね。荒浜中では80人超は居たのではないかとと思われるのが、高屋小では六年生の生徒が10名に、講師とスタッフに先生の6名で、計16名という少なさ。荒浜中ではあの人数に二人の講師だったのに、高屋小では三人の講師陣。荒浜中では料理教室だけだったのが、高屋小では料理教室の後に講師の方々の出身国について学ぶ時間がありました。

それと、高屋小ではお母さん方の参加はなく、殆ど生徒達だけで食材を切ったり、火を通したり。一人の講師の方に対して3~4人の生徒だから、一人として手の空く子も居ないし、またそれが出来る状態ではなかったのです。

ごんまりとした料理教室ではありましたが、担任教師の先生の生徒一人一人の自主性を引き出すやり方なのでしょうか、生徒達の目的意識がハッキリとしていて素晴らしいものとなりました。やはり教育とは子供一人一人に手を掛けることの方が、良いのではないかと思います。

ただ、10名の生徒で作る料理の量としては、全校生

徒数80数名の内、5年生と4年生の20数名がスキー教室で不在ではありましたが、それでも1~3年生の子供達の分に先生方と自分達の方ですから、相当の量の食材を料理したのです。味付けに関しては講師の方々がチェックを何度かしていましたので、非常に好評でした。

料理教室の後は、三人の講師の方々の出身国(メキシコ・タイ・中国)について学ぶ時間がありましたが、10人の20の目と耳は、講師の方に皆向いていて、質問なども積極的に行われていました。

最近のニュースで、世界の地理的認識が問題になっていましたが、高屋小の子供達を見ていると、そんなことは心配無用に思えてきます。料理も心を込めてだが、教育も心を込めて手を掛ければと考えさせられた、そんな「出前講座」でした。

参加した児童の声

・私は実際に外国の方と話をすることがなかったし、いろんな国のお金も見ることで貴重な体験になりました。
・パイさんが坂元にすんでいると聞いてびっくりしました。私も坂元にすんでいました。5年の時に亙理に引っ越してきました。

・パイさんやアキさんの民族衣装を見て私も着てみたいと思いました。
・メキシコのおもちゃを見せてもらったとき楽しくておもちゃがほしくなりました。
・一番心に残ったことは、ハラペーニョをなめた時、のどがあつくなったことです。



山田さんは

シャンティエン

私たち日本人は中国の方の名前を平気で日本語読みしています。漢字という同じ文字を使っているのだから安易に日本語読みをしてしまっているのでしょうか。

そこで、その不公平さを少しでも緩和するために日本人の名前を中国語で読んでみようと思います。中国出身の小野美香さんと当協会副代表の笹木さんの協力を得て、「国際交流協会わたり」のメンバーの名前を中国語読みで右表に書いてみました。この次、私(石田)に会った時は「シーティエン」と呼んでください。

ところで、この右表のカタカナをそのまま日本語の発音で読んでも本来の中国語にはなりません。中国語には声調というものがあり、1音節の言葉でも4種類の音の調子があるため、その調子が異なると違った言葉になってしまう。その他、日本語にはない母音・子音がたくさんあって十分訓練していない日本人の発音では、中国の人には違った言葉に聞こえてしまうそうです。

それだけを言い訳にしていまいかどうかわかりません

日本語名

中国語読み

佐藤 節子	ズオアタン ジェツ
笹木 重昭	シュウム チョンツアオ
尾形万里子	ウェーシン ワンリーツ
八巻 幸子	パーチュエン シュンツ
手戸富美子	ショウフー フーメイツ
菊地 義昭	ヂュティー イーツアオ
斎藤 邦男	チータウン バンナン
高見沢良和	カオチェンゼオ リアンホオ
鈴木 悦子	リンムウ ルイツ
石田 昌弘	シーティエン ツァンフォー

が、これからも日本人が中国語読みをする可能性はあまりないようで、失礼と思いながら日本語読みを続けていくということになりそうです。(石田)

国際理解講座出品

世界の料理紹介コーナー

*** 中国料理 包子(肉マン) ***



料理指導
佐藤純子さん

材 料

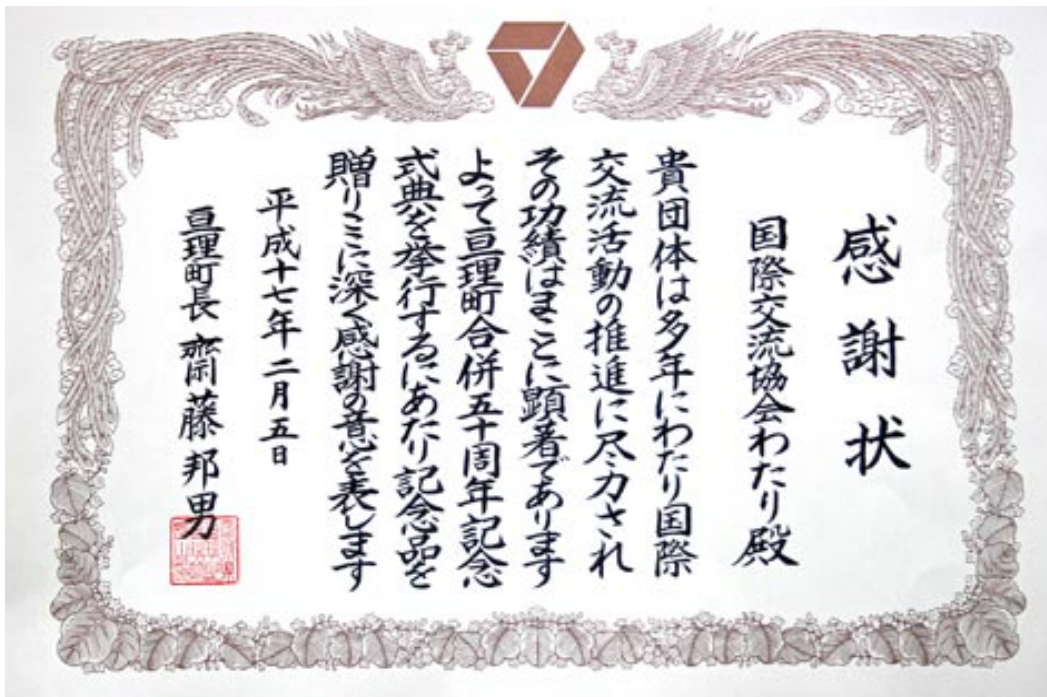
生地	
薄力粉 / 強力粉	各々 100g
サラダ油	大さじ1
ベーキングパウダー	小さじ1
グラニュー糖	大さじ1
ドライ・イースト	小さじ1
具	
ひき肉	200g
たまねぎ	1個
タケノコ細切り	1袋
緑豆はるさめ	適宜
きくらげ	適宜
醤油	大さじ2
胡椒油	大さじ3
酒・生姜汁	各大さじ1
テーメンジャン	大さじ3

作り方

- 生地：
 - ・ボールに生地材料入れ、ぬるま湯を3～4回に分けてはして混ぜながら加える。
 - ・ある程度固まったらボールから出し手でこねる。
 - ・生地が滑らかになったらボールに戻し、ぬれ布巾をかけ30分～1時間おく。(室温1次発酵 約2倍に膨らめばOK)
- 具：
 - ・ボールに具材料を入れ、混ぜ合わせ最後にごま油を加える。
- 具を包む：
 - ・生地を取り出し、麺棒でのばす。中心を厚めに直径10cm位に延ばす。
- 蒸す：
 - ・強火で15分蒸す。途中蓋は開けないように。

巨理合併五〇周年記念式典

感謝状受賞



*** 事務局から *** 報告事項

2004年

- 10月 ・「国際理解講座」開催 巨理小学校4年
外国人4名、日本語講座講師同行
- 12月 ・「国際理解講座」巨理保育所訪問
外国人2名、代表・社協担当者同行
・「世界の料理」荒浜中学校1年
外国人2名、協会員同行

2005年

- 1月 ・中学生海外派遣授業：英会話研修サポート
外国人1名、協会員1名
- 2月 ・巨理合併50周年記念にて「感謝状」受賞
・「世界の料理」高屋小学校6年
外国人3名、協会員同行
・H16年度「市町村国交流協会連絡会議」に参加し事例発表
・H16年度「日本語ボランティアセミナー」に参加し事例発表
- 3月 ・日本語スピーチコンテスト
「楽しい日本語講座」受講生1名参加。ALTなどの外国人15人参加中3位入賞。

編集後記

今年の冬は、やけに長かったように感じます。そのような時期、昨年12月から3月まで国際理解講座、在住外国人サポート講座、中学生海外派遣事業協力、そして宮城県国際交流協会(MIA)主催の催しものに参加して事例発表するなど、スタッフ・役員・アシスタント総出の活動をしました。皆さんご苦労様でした。(石田)



国際交流協会わたり 2005 総会のご案内

月日 4月10日(日)
場所 中央公民館
時間 13時から

尚、総会のあと
14:00 インドネシア文化紹介、
民族楽器演奏会
15:00 交流パーティ
を予定しています。

新会員紹介

- ・岡崎武彦さん 巨理町荒浜
- ・岡山哲三さん 巨理町吉田
- ・鈴木昭則さん 巨理町吉田
- ・山田峯子さん 巨理町油田



国際交流協会 わたり

事務局 巨理町役場企画課 TEL 0223-34-0505
事務局長 八巻 幸子 TEL 0223-32-2747
ホームページ <http://www.soma.or.jp/~sendai/kokusai>